

会長からの お知らせ

令和7年度大阪医科薬科大学医師会 評議員会・総会を開催しました

大阪医科薬科大学医師会 会長

森脇 真一

2025年(令和7)年6月23日(月)、令和7年度大阪医科薬科大学医師会評議員会・総会を開催しました。

医師会の組織強化のために、当医師会の上部団体である日本医師会と大阪府医師会から、若手の勤務医が日本医師会に加入するよう求められています。当医師会の会員数は561名(総会開催日時点)で、昨年の総会時の522名から39名増加し、研修医も39名から42名に微増しました。今後も一層の勧誘活動が必要ですので是非ご協力をよろしくお願いいたします。

総会では例年通り、令和6年度活動報告ならびに令和7年度活動計画の説明を行いました。詳細はホームページ(<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/ompuda/about/business.html>)をご参照ください。どちらも審議ののち承認されました。続いて令和6年度会計報告ならびに令和7年度予算案について説明を行い、こちらも審議ののち承認されました。本会報を会員限定にするかどうかどうか、審議しました。現在は、広く読んでもらうことを目的にフリーアクセスにして、ダウンロード及び印刷を可能にしています。が、テキストのコピーはできないよう制限をかけています。大学病院の強みや診療科の情報を積極的に配信して、ブランドイメージの向上にも寄与しているので、会員にも会員以外にもアピールするのが良いという意見を複数いただきました。今後は、執筆を依頼する際に、会員以外の医師や患者さんの目に触れることを考慮していただくよう説明することとし、会報各ページの下方に当医師会報と号数を明記します。

本医師会の先生におかれましては、今後とも若手医師への医師会勧誘を含めまして医師会活動へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

会長からの お知らせ

第33回北摂四医師会医学会総会を開催しました

大阪医科薬科大学医師会 会長

森脇 真一

2025(令和7)年6月14日(土)、第33回北摂四医師会医学会総会を開催しました。北摂四医師会医学会は、高槻市医師会、茨木市医師会、摂津市医師会、大阪医科薬科大学医師会および大阪府医師会勤務医部会第2ブロックの連合によって構成されています。今年度は摂津市医師会が当番で、摂津市立コミュニティプラザで開催しました。当日会場には、42名の先生が来場されました。

特別講演は、大阪医科薬科大学、一般・消化器外科学教室教授の李相雄先生にお願いし、「外科学の発展の課題」と題して講演をいただきました。ここ数十年の外科治療がどのように変化したかたくさんの写真を提示して説明いただき、またこれからのチーム医療や人材育成など、幅広い観点でご講演いただきました。熱心にご聴講いただき、多くの質問がありましたことから、関心の高さが窺えました。

また、一般演題では11題発表いただき、活発な討論が展開されました。北摂四医師会医学会ホームページ(<https://4ishikai.jp/meeting/index.html>)に抄録を掲載していますので、是非ご高覧下さい。この中から2題を優秀演題賞として選考して、賞金5万円を授与いたします。優秀演題賞の対象は、昨年度まで勤務医が含まれる演題としていましたが、今回から勤務医に限らず当ブロックの医師が発表する全ての演題としました。

来年度は、6月13日(土)に開催します。一般演題でのご発表、多数の先生方のご参加をいただきますようよろしくお願いいたします。

大阪府医師会加納会長に特別講義を いただきました

大阪医科薬科大学医師会 会長

森脇 真一

加納会長が医学生に特別講義

大阪医科薬科大学「第3学年診断学入門」

加納康至会長は5月1日午後、大阪医科薬科大学に出向き、「第3学年診断学入門」において特別講義を実施。「日本の医療制度と医師の業務」と題して講演し、約120人の医学生が受講した。

まず、日本の医療制しなければならぬと度として、保険診療の強調した。関係法令や仕組みを解説。保険者療養担当規則にも言と保険医療機関との及、診療録の記載・保「公法上の契約」であり、診療の根拠となり、健康保険法等で規するため重要だと伝え定されるルールを遵守した。また、保険診療の

禁止事項として、①無診察治療②特殊療法③健康診断④濃厚（過剰）診療⑤特定の保険薬局への誘導——などを列挙。こうしたルールを遵守せず不正・不当の疑いがある場合は、指導・監査の対象となることを促した。加えて、▽国民皆保険制度▽現物支給▽フリーアクセス——な



加納会長

域医療構想に触れ、

「治す医療」と「治し方改革」などを取り支える医療」を担う医療機関の役割分担を明確化し、地域完結型の医療・介護提供体制の構築を目指すとの方向性を示した。さらに、医療機関の経営を取り巻く環境は深刻な状況と指摘。診療報酬改定では、物価・賃金の上昇に適切に対応できない。医師会は、組織であり、連携を取りながら活動していることを示した。医師会は、行政のパートナーとして、医療現場の声を基に医療政策の提言を行うなどより良い医療の実現を目指すとしていると力



医師会活動を伝えた

関連するホームページ

■府医ニュース 2025年8月6日号：

大阪医科薬科大学「第3学年診断学入門」
<https://www.osaka.med.or.jp/doctor/doctor-news-detail?no=20250806-3116-16&dir=2025>